

新たな息吹 SINCE2007



さわの里だより



横浜市立さわの里小学校 学校だより

URL <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sawanosato>E-mail y3sawano@edu.city.yokohama.jp

夏休み号

子どもの心が動く・・・

そうした環境づくりをありがとうございました

学校長 鈴木 和枝

今年度も、6月から7月にかけての5回、横浜国立大学の学生の皆さんに、子どもたちの音楽科の学習を支援していただきました。学生の方々は将来教職に就くことを目指している4名。対象は5年生でした。最終

回の7月7日の学習は、学生の皆さんのリードによって、子どもたちと一緒に創っていただきました。その内容は、まず最初にクラリネットとオーボエ、ピアノの連弾で、子どもたちが4年生のときに鑑賞している「ノルウェー舞曲」という曲を4人の学生が生演奏し、それを子どもたちが聴くことから始まりました。次に、5年生のリコーダー二重奏「星笛」という曲を、同じ楽器で演奏したものを聴くことで、さらに音色の重なり的美しさを感じ取り、最後には、子どもたちはリコーダー演奏で学生の皆さんの演奏とコラボレーションする、一緒に演奏する中で、音のひびき合いの何とも言えない美しさを体感するという流れでした。この構想は、子どもたちの音楽的な力も興味関心も一番よくわかっている音楽専科が考えました。

子どもたちは、「音が重なるとこんなにきれいだということがわかりました。」「4年生の頃は（ノルウェー舞曲を）CDでしか聴いたことがなかったけれど、目の前で聴くことができたので、とてもきれいだし、CDとは違っていいなと思いました。」「（クラリネットやオーボエ、ピアノ連弾と一緒に演奏をして）いつもより音楽がグレードアップしていて迫力がありました。」「私が（リコーダーの）音はずしてしまっただけでも、オーボエとクラリネット、ピアノがきれいな音を出してくれて、すごく安心しました。」等々、目で、耳で、体全体で、楽器の音色、音色の重なり、そして曲の美しさを感じ取っていました。40分間の学習は、あっという間だったと思いますし、子どもたちの後ろ姿はとて前のめりで美しい姿でした。

さて、今週の火曜日にも暑い暑い一日でした。下校する子どもたちを送ろうと思い、ロータリーに出てみると、円形花壇に水やりをしている何人かの子どもたちがいました。汗をいっぱいかきながら、ジョウロを手にも何度も水道と花壇の間を行き来している子がいました。枯れてきた花殻を、抱えきれないくらいいっぱい摘み取っている子がいました。その子も汗だくです。子どもたちの中には、毎朝登校後のわずかの時間を使い、大人がいなくても当たり前のようにこの花壇の手入れをしている子もいました。

子どもたちは「明日の朝もやりま～す！」と言って、ランドセルを背負い帰っていきました。うんざりするような陽射しでしたが、子どもたちの声はとて爽やかにひびきました。

子どもたちが「自分たちが、自分が、関わっていこう。やろう。」と動き出すのは、理屈ではなく、子どもたちが「自ら受け止め、自ら働きかけよう」と思える、動き出せる環境があるかどうかだと考えます。

音楽科における学習も、そしてロータリーの花々ももちろんのこと、生活科や総合的な学習などでも、たくさんの方々に学校にお越しいただいたり、一緒に校外に探検などに行っていたりした1学期でした。学援隊の方々には、猛暑の中連日子どもたちの安全を守っていただきました。実に多くの方々に、子どもたちの安心、安全な毎日、そして学びの環境をつくっていただきました。子どもたちはほんとうに幸せだと思います。ほんとうにありがとうございました。教職員一同厚く御礼申し上げます。

